

## 沖縄県サンゴ礁保全推進協議会・第2回将来委員会議事概要

- 日時：平成28年11月29日（火）16:00～17:30
- 場所：沖縄県 県庁4階 第5会議室
- 出席者：八重山サンゴ礁保全協議会（吉田稔）、中野義勝、WWF ジャパン（権田雅之、鈴木倫太郎）、自然保護課（出井航）、藤田喜久、宮古島マリンリゾート協同組合（新村一広）
- 事務局：沖縄県自然保護課（中村章弘、古田さゆり）
- 運営委員：キュリオス沖縄（仲栄真礁）、沖縄県環境科学センター（山川英治）

### 【アンダーライン部分が決定事項】

### 【「・」は説明事項および提言事項】

### 【「→」は説明事項や提言事項に対する意見】

#### （1）将来委員会のゴールについて、各委員からの意見

- ・サンゴ礁保全を通して地域に貢献できるようになること
- ・会員が活動をやめてしまうことがないような組織力が必要。  
→組織力を高めるには現在の理事は多いかもしれない。
- ・離島は距離があるので、情報がうまく伝わらなかったり、物理的に困難なことが多い。法人化することで地域ごとに責任者をおき、組織力を高めることが必要ではないか。
- ・法人化を目指しながら問題点を議論してはどうか。
- ・設立趣意書に則っていればよいと思う。受け皿が広くどんな人でも参加できるということが続けられればよい。やり方は正直わからない。
- ・NPOを設立して維持するのは大変。今の状態でうまくいっているのであれば、それでもよいとも思う。理事会を少数にするのも一つのやり方。
- ・ゆるやかな繋がりとは法人化は両立が難しい面があるかもしれない。
- ・会員の望んでいることや会費を取る場合いくらならOKか、会員を続けるかなどについてアンケートなどできいてみてはどうか。その上で目指す方向を決めてもよいのではないか。
- ・法人化については状況にあった状態を検討するのがよいのではないか。例えば、法人化が必要な状況は、サンゴ検定のような検定制度を作って検定料を徴収するなど、収益事業を行う必要な場合だと思う。
- ・ネットワークの構築は協議会の目指すべきゴールだと思う。
- ・法人化にこだわる必要はないと思う。サンゴ礁ウィークを中心に協議会の事業が回り始めてきたように感じる。間口の広いゆるやかな繋がりとしての役割は必要だと感じる。
- ・法人化と事務局を沖縄県から他へ移すことは同じであるべきだと思う。法人化について検討することは人とお金についてだと思う。事務局を維持できる人とお金を揃えることができるかが重要なので、ビジネスプランみたいなもの考える必要があるのではないか。

#### （2）現状の問題点について

- ・メールなどで連絡をしても返信のない理事がいる。理事の中で温度差があるように感じる。
- ・協議会の会員になっても会員の実感がないのは大きな問題だと感じる。

- ・設立趣意書にあるみんなが議論できる場というのは、重要なプラットフォームの機能だと感じる。この機能をどうやって具体的な事業とするのかは重要な部分だと感じる。
- ・会計の部分など専門的な知識をもってやっているわけではないので、税金など実務上の問題がある可能性がある。
  - 委託費の中で事務的な処理にかかる費用は全てまかなえるか。
    - 環境科学センターの場合は、まかなえない部分は自主研究などの名目で処理している。
- ・会員へのメリットが十分でないと感じる。集まった人々を繋いでネットワークを維持することが課題だと感じる。
- ・業務の範囲内の作業かどうか迷う事がある。
  - 労力はどれくらいかかるか。
    - 今のところ1割ぐらい。
- ・総会の時期は大変な労力がかかる。時々突然大変な案件が出てくる。
  - 3割ぐらい労力をかけている。
- ・会員に対してアンケートを行う必要があるのではないか。
  - 会員の申込書にアンケートをつけている。会員は、情報不足、資金不足、人材不足という問題を感じていて、それらを解決したくて会員になるようだ。
    - アンケートの結果を出して欲しい。
      - 「団体個人で最も憂慮していること」資金不足 38、人材不足 23、情報不足 18、その他 13、回答なし 38。
      - 「重点的に行っている活動（3つまで）」1番目：環境教育・人材育成、2番目：モニタリング、3番目：イベント企画の開催、4番目：その他

### (3) 会費について

- ・総会での会員数の報告がないのは問題。
  - 自主的に会員になった人が継続しないということは、協議会の活動に問題があるということではないか。会員の意識を維持するためにも、会費というのは必要ではないか。
- ・全国から会費を徴収する団体もある。会員として具体的な活動をするわけではないが、お金を出すことで参加しているという意識になるのでは。
- ・現状会費を徴収することは可能か。
  - 会則を変更すれば可能。
- ・助成事業など会費制の会員のメリットを用意し、会員にならなくても門戸は開かれているという状態も可能ではないか。
- ・会員種別を設定してはどうか。
  - 事務的な手続きが大変になるので、一律に安いほうがよいのではないか。
    - 全国から会費を払って会員になる人と協議会のネットワークを利用したいという会員は目的が異なるのではないか。
    - 芸能人のファンクラブ的な体制ができれば、活動を応援したい人と活動する人がうまくまわるのではないか。
      - 協議会の会員の中で同じような活動をしている団体と重ならないように注意する必

要がある。

→集めた資金を助成事業とするなど、工夫すればやり方はあるのではないか。

- 会員から 1,000 円ずつ徴収しても 13 万ぐらいにしかならない。会費をとることで、会員が大幅に減って数万になる可能性もある。  
→年間の予算額は協議会の運営で 300 万円（実質的には 160 万円）必要なので、少額の会費ではまかなえない。
- 会員のメリットや会員であることの意識を高めることは重要だと思うが、サンゴ礁ウィークなどの活動を洗練して認知を高めたり、活動内容の発信を工夫したり、というようなことが数年後に大きな効果をもたらすと思う。
- 法人化のために会費を徴収して、会員が少なくなっても続けていくのか。会員が少なくなっても協議会の設立趣旨を維持できるかななどの議論が必要ではないか。

#### (4) その他

- NPO 法人以外の可能性はあるのか。  
→一般社団法人は実務的なハードルが低い。
- 理事の数が多いうのは共通の認識ではないか。理事の数を減らすには、総会での承認などが必要なので、ある程度準備が必要。  
→組織強化のための体制を作るために、理事の定数など規約の変更を理事会に提案する。
- 会員の除名について規約を作るべきではないか。  
→現在の規約では総会参加の意思表示や委任状等が 2 年間続けてない場合は権利が停止されるが、3 年間続けてない場合は除名とすることを理事会に提案する。
- 総会で規約変更が承認されたら、会費の徴収や法人化などについてのアンケートの実施を理事会に提案する。
- 次回の将来委員会もサンゴ礁ウィークなどと同じ時期に開催する。